

埼玉県の農と食の商談会に参加 鶏卵4社

埼玉県の埼玉りそな銀の鶏卵関係4社が出展し、行が主催する「農と食の展示商談会」など2展が2月1日、さいたま市中央区のさいたまスーパーアリーナで開かれ、県内

とって珍しい「Sサイズ」の鶏卵関係4社が出展し、行が主催する「農と食の展示商談会」など2展が2月1日、さいたま市中央区のさいたまスーパーアリーナで開かれ、県内



愛鶏園は新たな赤いノボリ旗を立てて卵の情報を発信



にこやかに国産鶏卵をPRした境野養鶏の境野順子取締役



松本米穀精麦とラグビーがコラボした「ノーサイドたまご」



ナチュラルファームの展示品『放し飼いたまごエコッコ』

いカルシウム源で卵殻を強くしている」ことなどを紹介した。

「卵」を殻付きのままゆでて試食提供。卵のアンケート調査も実施しつつ、齋藤拓社長や試食担当者が「卵本来の味を感じられるゆで卵とした」「良

業」ともに出展。「良いヒナ、良い鶏卵、良い卵焼きまで提供できる」

と、全体の事業概要を説明した。境野順子取締役は輸出関係者との交流にも注力し、「卵かけご飯を日本の食文化として発信したい。トッピングとなる深谷ネギや調味料なども輸出できるのが理想。日本の卵を1つのプ

（栃木県）ナチュラルファーム（畜居町/旧社名「丸一養鶏場」）は、柳憲隆社長が「鶏が自由に暮らしながら産んだ卵」として、多段式平飼いシステムで生産する「放し飼いたまごエコッコ」を展示した。

ランドとして海外に出していければ」とコメント。松本米穀精麦（熊谷市）はラグビーの埼玉ワイルドナイツとコラボした「ノーサイドたまご」を出品。プースには「小麦の里くまがや」とのノボリを掲げ、自慢の麺とつゆをセットにした「熊谷うどん」などもPRした。